神奈川県立図書館の視聴覚サービスと特別コレクション
－視聴覚サービスの今後を考える－

佐藤　靖子

はじめに

2014年４月、神奈川県立図書館(以下「当館」という)では新館１階にある視聴覚資料室を再整備し、その一部に生涯学習サポートコーナーが設置され、さらに2015年４月から隣室には女性センターからの移管資料を公開する女性関連資料室１も開室した。これは、2014年２月７日、県財政再建のための「緊急財政対策の取組結果」[1)]により、「閲覧・貸出機能の継続、川崎図書館及びかながわ女性センター蔵書の受入れ、相互貸借システムの拡充などの広域的サービスについて検討、収蔵スペースや展示機能の充実を図るため建物の建替え・改修についての検討、生涯学習情報センターを廃止しその機能を集約化」[2)]とまとめられたことを受けての動きである。当館の視聴覚サービスは、開館当初から他施設との関連、政策の影響を受けて始まっている。図書館の変化、時代の変化とともに変貌を遂げてきた当館視聴覚サービスの歴史と視聴覚資料の特別コレクション群を紹介し、今後の視聴覚サービスを考えていく。

1　神奈川県立図書館の視聴覚サービス

視聴覚サービスの変遷について、当館刊行の年史[3)]を参考にしながら時代順にまとめた。

1.1　視聴覚サービスの始まり（1954～1983年）

1954年、当館新設時に、横浜CIE図書館（第二次世界大戦後の1948年、連合軍総司令部による占領政策の一環として設置された図書館)の16ミリフィルム1,162本、スライド507点、紙芝居81組、レコード95組、録音

機材128点を受入れ、視聴覚サービスが始まった。1957年からレコード購入を始め、1973年にはカセットテープ購入に切り替えた。1970年代、オーディオブームの盛り上がりで、カセットテープが急速に普及した時代背景がある。また、1971年7月13日付文部省社会教育局長通達「視聴覚ライブラリーの充実整備について」(文社教134号)[4]を受けて「視聴覚教育資料選定要項」[5]を作成している。1979年、紙芝居は、児童サービスを実施していた県立川崎図書館に移管し、1981年6月、神奈川県立文化資料館より『こんにちは神奈川』『神奈川ウィクリー』等、TVKテレビ放映の16ミリフィルムが移管された。

1.2 音楽資料サービスの始まり(1984〜1989年)

1984年8月、神奈川県立音楽堂(以下「音楽堂」という)の音楽資料室から、レコード2,737枚、楽譜2,360点が移管され、当館内に音楽資料室を開設した。映像だけでなく音楽資料も図書館に集まってきた時代の変化がここでもみられる。この頃、県内視聴覚ライブラリーは28施設[6]あり、そのうち10施設に対して、16ミリフィルム、30本以内を3ヶ月間貸出していた。1986年4月、CDの収集を開始し、館内視聴も同時に始めた。1987年には、LPレコード[7]とCDの生産量が逆転するという現象が起きた。また、1989年、日本ではレコードがほとんど生産されなくなった時代でもある。1987年、文部省の社会教育審議会教育メディア分科会から「生涯学習とニューメディア(報告)」が提案された。コンピュータを含めたニューメディアの発達により、視聴覚機材、記録媒体が変化したことを受けての提案であった。当館では、同年12月26日に「視聴覚センター等将来方向検討会議」が設置され、2年度に渡り、計6回の会議を経て、「視聴覚メディアセンター(仮称)構想について」(提言)がまとめられた。

1.3 館外個人貸出の始まり(1990〜1998年)

1990年7月、文部省社会教育審議会施設分科会から「博物館の整備・運営のあり方について(報告)」[8]で、新しいメディアを活用した展開の工夫

やハイビジョンギャラリーの整備の提言がまとめられた。また、1991年6月には、文部省社会教育審議会社会教育分科審議会施設部会が、「公民館の整備・運営のあり方について(報告)」で、マルチメディアやハイビジョンの学習活動への活用を提言し、コンピュータ導入を含めた新しい視聴覚教育メディアの活用を促した。1992年3月、文部省生涯学習審議会社会教育分科審議会教育メディア部会から「新しい教育メディアを活用した視聴覚教育の展開について(報告)」が提言され、学習方法の個性化の促進とそれに対応したマルチメディアの教育利用と普及の課題に言及した。

報告が出されたこの時期、当館では、1990年4月、貸出用としてCDの購入、ビデオテープの館外個人貸出、LD[9]収集を開始した。1991年10月2日、CDコーナーを公開し、館外個人貸出を開始した。1992年4月には、ビデオテープを公開書架に配架し、利用者への便宜を図ったところ利用が増加した。5月、寄贈によるSP[10]・LP・EP[11]の収集を開始した。これは、文化遺産として県民から、SP・LP・EPの寄贈を受け入れる事業であった。この事業は1995年度に終了し、1996年度以降は特色ある資料に限って寄贈を受け入れている。1992年4月、大宮真琴より寄贈を受けたSPレコードの貸出を開始した。また、ビデオテープとともにLDも音楽資料室で鑑賞できるようにした。1993年4月27日施行の「県立図書館視聴覚教育資料収集要項」および「県立図書館視聴覚教育資料選定基準」[12]に「音楽資料室の選定要項・選定基準」を視聴覚関係資料として包含し一本化した。7月、カセットテープの館内利用を開始した。11月には、SPプレーヤーを購入し、音楽資料室でのSPレコードの館内利用を開始した。1994年7月、県民からの寄贈レコードの一部公開を始めた。

1.4　広くなった視聴覚センター（1999～2012年）

1999年4月、新館1階の視聴覚センター内にあった事務室を新館2階事務室に移動したことにより、視聴覚センターの部屋が拡大した。2003年3月、青少年センターの組織改編により、音響関係資料・機材が移管された。タンノイ社のスピーカー、アンプ等機材とLD260枚、LP3,700枚、CD500

枚が移管され、10 月には、タンノイ社のスピーカーを使用した「レコード鑑賞会」を 43 年ぶりに開催した。2005 年４月には、新館地下１階に学習室が移転し自習室とし、新館１階の旧学習室には、CD、ビデオ、レコード、DVD 等を移した。さらに、本館閲覧室から音楽関係の図書・雑誌・書庫内資料を移動し、視聴覚資料室とした。同年、かながわ県民センター５階にある「神奈川県生涯学習情報センター」で県立の図書館の図書の貸出・返却業務が始まった。2006 年１月には、2 本立てであった「神奈川県立図書館図書資料選定会議要領」と「神奈川県立図書館視聴覚資料選定会議要領」を統合し、選定の手続きを「神奈川県立図書館資料収集会議要領」に基づき行うこととした。2010 年４月には、神奈川県立図書館組織規則の一部改正により、２部６課１駐在事務所（管理課、横浜駐在事務所、企画サービス部／企画協力課・調査閲覧課・地域情報課、資料部／図書課・情報整備課）となり、「神奈川県生涯学習情報センター」が教育局生涯学習部生涯学習課から移管された。視聴覚部の視聴覚資料課は、資料部情報整備課に、業務課は、企画サービス部調査閲覧課に吸収され、視聴覚部はなくなった。

1.5　視聴覚資料室のレイアウト変更（2013～2015 年）

2014 年２月７日、県財政再建のための「緊急財政対策の取組結果」[1)]の中で生涯学習情報センターは「県立図書館に集約化」「県立図書館の駐在事務所としては廃止」という方向性が示された。結果、2014 年４月より図書館内に生涯学習サポート課が設置され、１階の視聴覚資料室の一部に「生涯学習サポートコーナー」が誕生した。この組織再編にともない、生涯学習情報センターが所蔵していた郷土映像ビデオ 910 点を受け入れた。2009 年から 2012 年の間、DVD 等の媒体が主流となってきたため、ビデオは購入・寄贈による受入れを行っていなかったが、郷土資料は収集範囲であることから、受け入れることとした。また、この年より郷土映像ビデオは、保存に配慮し館内閲覧のみの利用となった。現在、視聴覚資料室ではクラシックを中心とした CD を購入している。また、16 ミリフィルム、カセットテープ、ビデオテープ、LP・SP レコード、DVD 等、資料を保存している。個

人貸出、団体貸出、館内利用と利用方法も多様であるが、個人貸出をしているCDはよく利用されている。視聴覚資料のコレクション群も多数あり、その中の特別コレクションについて次章でまとめた。

2　特別コレクション

視聴覚資料の中で、特色のある資料群を特別コレクションとしているのは、日野康一（ひの　こういち）コレクション、野村光一（のむら　こういち）文庫、大宮真琴（おおみや　まこと）コレクション、佐藤コレクション、須賀田礒太郎（すがた　いそたろう）自筆楽譜コレクションの５点である。創設の順に人物・コレクション紹介（特色、検索・利用方法）等をまとめた。

2.1 日野康一コレクション

受入当時の事情がわかる資料が少ないため、残っている資料を基にまとめた。コレクションの創設は、1971年。『〔日野康一コレクション〕レコード目録』は1976年刊行。[13)]

2.1.1 人物紹介

図１　日野康一コレクション（当館HPより）[15)]

『現代物故者事典』[14)]によれば、映画・音楽評論家の日野康一は、1929年９月22日東京都文京区で生まれている。学習院大学物理学科を1953年に卒業し、ニッポン・シネマ・コーポレーション宣伝部、東京文化配給部、メトロ・ゴールドウイン・メーカー宣伝部に勤務した。1963年より、フリーとして映画関係の執筆、フリー宣伝プロデューサーを務めた。一般財団法人日本映画批評家大賞のホームページ[16)]によれば、大学時代に英国映画「赤い靴」に酔い痴れたのが映画界入りのきっかけと記述されている。日本におけるブルース・リー評論の第一人者であり、ジャッキー・チェンやホラー映画

にも造詣が深かった。また、映画音楽にも詳しかったため「日本映画音楽大賞」には、日野康一賞（映画音楽アーティスト賞）がある。
2010 年 10 月８日、埼玉県越谷市の病院で急性心筋梗塞のため、81 歳で逝去された。『現代評論家人名事典』[17] によると、1994 年 12 月時点では、横浜市港北区箕輪に在住となっており、神奈川県に住んでいたため当館に寄贈いただけたと推測できる。

2.1.2 コレクション紹介

当館では､映画音楽を中心としたLP レコード 500 枚を寄贈いただき､｢日野康一コレクション」として、館内視聴・館外個人貸出を行っている。コレクションには､映画音楽の全集シリーズが 18 種類、ブルース・リーのアクション映画、西部劇映画、ミュージカル映画、青春映画等のジャンルが揃っている。また、ギター音楽、マーチ集、ブラスバンド、トランペット等のジャンル、ロシア民謡、インド、フラメンコ、ハワイアン、ワルツ等のジャンルも揃っている。多彩なジャンルのコレクションである。

所蔵資料の検索は、神奈川県立図書館＞ホーム＞資料紹介・情報誌＞コレクション紹介＞日野康一コレクション＞「日野コレクションレコード一覧」(OPAC 検索）からできる。冊子体の目録は､『〔日野康一コレクション〕レコード目録』が、視聴覚資料室で利用できる。

寄贈 LP には『映画音楽大全集』[18]『西部劇映画ベスト・ヒット曲集』[19]『アクション映画ベスト・ヒット曲集』[20] 等がある。

著作には､『ブルース・リー大全科』[21]『ジャッキー・チェン大全科』[22]『世界の名曲とレコード４～映画音楽～』[23] の他､『キネマ旬報』『映画評論』『スクリーン』等、雑誌への連載も多数ある。

2.2 野村光一文庫コレクション

当館“展示パネル(Web 版)野村光一文庫”等 [24] を参考にまとめた。創設は 1989 年。安田輝子氏(野村光一のご息女)より｢県民の音楽文化の向上に役立ててほしい｣と野村光一収集の図書・雑誌・音楽会プログラム・レコー

ド等の音楽関係資料の寄贈を受けたことから特別コレクションとした。

2.2.1 人物紹介

野村光一と当館は、開館当初から関係が深い。終戦後、図書館建設の気運が高まる中、当時の神奈川県知事は、図書館と同時に音楽ホールの建設構想をたて、音楽評論家の野村光一や声楽家の佐藤美子らに意見を聞き、事業を推進した。結果、日本の近代建築の第一人者である前川國男の設計による図書館と日本初の音楽専用ホールを組み合わせた斬新な建築ができあがった。野村光一は、その後も 1954 年から 1981 年、神奈川県立音楽堂運営協議会副会長、1981 年から 1987 年は、同協議会会長を務めている。

野村光一は、1895 年 9 月 23 日大阪府生まれで、当時授業に西洋音楽を取り入れていた京都府立第二中学校(現:京都府立鳥羽高等学校)に進み、音楽と出会った。卒業後は、慶應義塾大学文学部哲学科に入学し、小宮豊隆(ドイツ文学者、評論家)の教えを受けたことで、批評家としての一生を決定づけた。卒業論文は「ショパン論」で小宮教授の審査を受け、1920 年に卒業した。1921 年に渡英し、ロンドンの王立音楽アカデミーでピアノを学び、ドイツにも渡った。この時期、多くの演奏会に足を運んでいた。1923 年に帰国した後、新聞や雑誌で評論活動を行った。また、日本の若手音楽家の育成にも情熱を注ぎ、1932 年に始まった「音楽コンクール(現:日本音楽コンクール)」の創設に関わり、審査委員長と理事を務めた。1988 年より、ピアノ部門の最優秀者に授ける「野村賞」も新設された。さらに、複数の大学でも講師を歴任し、教育に力を注いでいた。野村光一が最も愛した音楽の一つがショパンの作品である。ショパン生誕 150 年を記念して 1960 年に設立された日本ショパン協会では、1963 年から 1981 年まで会長を務めていた。1923 年から鎌倉に居を構え、「音楽活動はまず自分の町から」の持論を実践し、1946 年「鎌倉音楽クラブ」を創設した。

多岐にわたる活動が評価されている。1960 年フランス国政府から「芸術文学勲章オフィシュ」、1962 年「神奈川文化賞」(音楽普及啓発の功労)、1967 年「紫綬褒章」(音楽評論の功労)、1979 年「教育文化功労賞」(鎌倉市長

表彰)、等受賞。戦前戦後を通じて日本の音楽界を牽引した野村光一は、1988年5月22日、鎌倉市の自宅で逝去された。92歳であった。1989年音楽堂において、「野村光一先生追悼演奏会」「寄贈資料展」が同時に開催された。寄贈者である安田輝子氏には、県知事の感謝状が贈呈された。

2.2.2 コレクション紹介

コレクションには、図書資料1,526冊(和書772冊、洋書754冊)、LPレコード926点、音楽会プログラム約1,400点、音楽コンクール関係資料、放送台本、自筆原稿、雑誌等がある。洋書は、英・独・仏・ポーランド語等で書かれた作曲家の伝記や音楽史に関する資料が多く、特にベートーヴェン、ショパンに関する洋書がそれぞれ60冊ほどある。18世紀、19世紀に出版されたものもある。和書は、1930年から1960年に出版されたものが中心となっている。その分野は明治期のピアノ教育書や日本音楽史研究、ベートーヴェン、ピアノ音楽、オペラ、邦楽等にわたっている。

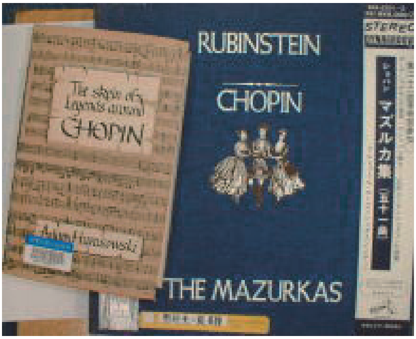

図2　野村光一文庫コレクション（当館HPより）[15]

LPレコードは、ピアノ曲が多く、特にショパンの作品が多い。

音楽会プログラムは、約400点は留学中の1921年から1923年の英・仏のものが多い。国内のものは約1,000点あり、1920年から1980年までで、最も多いのは、1950年から1960年の資料である。野村光一文庫は、図書資料の閲覧、LPレコードの館内視聴・館外個人貸出を行っている。著作には、『名曲に聴く』上・中・下[25]『ピアノ回想記』[26]『ショパン』[27]等がある。

所蔵資料の検索は、神奈川県立図書館＞ホーム＞資料紹介・情報誌＞コレクション紹介、野村光一文庫「野村コレクション図書一覧」「野村コレクションレコード一覧」(OPAC検索)からできる。冊子体の目録は、『野村光

一文庫目録』、『野村光一文庫目録増訂版』が、一般閲覧室・視聴覚資料室で利用できる。

2.3 大宮真琴コレクション

大宮真琴コレクションの受入れ当時の事情がわかる資料が少なく、当館ホームページと『神奈川県立図書館・音楽堂 40 年の歩み』『現代物故者事典 1994～1996』[28)]『音楽家人名事典』[29)]、インターネットからの情報でまとめた。

創設は、1991 年。1992 年２月には、大宮真琴他３名の方から寄贈された SP レコードをまとめ『視聴覚教育資料目録－SP レコード－』を刊行。４月 16 日より、目録に掲載された SP レコード（1,354 タイトル）を「大宮真琴コレクション」の塊とし、他の SP レコードと併せ 2,657 点の貸出を始めた。LP・CD にも収録されていない曲を含むクラシック中心の貴重な資料である。

2.3.1 人物紹介

大宮真琴は、音楽評論家・指揮者・お茶の水女子大学名誉教授、ハイドンを専門とする音楽学者であった。1924 年７月１日東京生まれ、京都帝国大学法学部を 1947 年に卒業、東京大学文学部美学科を 1951 年卒業、東京大学大学院を 1953 年に修了している。フェリス女学院短期大学助教授、成城大学助教授を経て、1963 年お茶の水女子大学助教授、1970 年に教授、1988 年退官後名誉教授となった。その後、沖縄県立芸術大学教授、音楽教育学専攻主任、学生部長、附属中学校校長を歴任した。

また、1965 年より、ケルンのヨーゼフ・ハイドン研究所理事を務め、1968 年には、日本ハイドン・アンサンブル管弦楽団、1971 年、東京ハイドン合奏団を設立し、音楽監督・指揮者も務めた。日本

図３　大宮真琴コレクション
（当館 HP より）[30)]

ハイドン・アンサンブル管弦楽団は、音楽堂で1964年から1992年の間、29回の演奏会を開催した。大宮真琴による構成・解説・指揮で、ハイドンの作品を中心にヘンデル等古典派の作品が演奏された。大宮真琴による解説は好評で、常連の多かった音楽会であった。しかし、事業の見直しにより惜しまれつつ終了となった。1990年には、「ヨーゼフ・ハイドン　リラ楽曲研究」で、大阪大学文学博士、同年、京都音楽賞（研究・評論部門、第５回）を受賞している。1995年５月14日、70歳で逝去された。鎌倉市在住であり、さらに音楽堂との関連も深いことから、当館に寄贈いただけたのでないかと推測される。

2.3.2 コレクション紹介

大宮真琴コレクションには、SPの名盤として評価の高いフーベルマンのヴァイオリン演奏によるチャイコフスキー作曲『ヴァイオリン協奏曲ニ長調　作品35』とベートーヴェン作曲『ヴァイオリン・ソナタ第９番イ長調作品47「クロイツェル」』がある。また、SP盤からCDへの復刻が絶えないピアニスト・コルトーによるショパン作曲『24の前奏曲』とフランク作曲『交響的変奏曲』もある。ハイドン、ショパン、ベートーヴェン、シューベルト等作曲者254人の曲と各国の古曲・民謡のコレクションである。

著作には、『大音楽家・人と作品２《ハイドン》』[31]『幼児と音楽　豊かな表現力を育てる』[32]『ピアノの歴史　楽器の変遷と音楽家のはなし』[33]等がある。所蔵資料の検索は、OPACではできない。冊子体目録『視聴覚教育資料目録－SP　レコード－』により調べられる。目録には、「平成４年から一般の方に貸し出すことになりました。」[34]と記述されているが、『平成18年度事業概要』2006年６月刊によれば、「SPレコードは割れやすいなどの欠点から館外貸出には不向きであるため、視聴覚資料室内での館内視聴のための機材を含めて視聴できる環境を提供する。」[35]との記述がある。保存を優先し、館外貸出を2006（平成18）年から取りやめた経緯が示されている。現在は、視聴覚資料室内での視聴のみの利用となっている。

2.4 佐藤コレクション

2001 年、横浜市立大学図書館から寄贈についての紹介があった。佐藤隆司(さとう　たかし)氏が、自社ビルの解体に伴い所蔵していた本・LP レコード・CD 等を整理したいとのお話であった。当館では寄贈を受け、2001 年「佐藤コレクション」を創設した。寄贈受入れ時の事務用資料と当館ホームページ「司書の出番！」[36)]を参考にまとめた。

2.4.1 人物紹介

佐藤隆司氏は、1926 年湯河原に生まれ、1949 年早稲田大学政治経済学部を卒業後、家業の港タクシー株式会社に入社、1994 年には代表取締役に就任。2003 年、湯河原町立図書館に貴重な書籍等を寄附し、湯河原町名誉町民として表彰された。また 2004 年に、当館に貴重な図書館資料(専門図書、LP レコード、CD 等)を寄贈したことに対し知事の感謝状が贈呈された。[37)]
実業家である佐藤隆司氏は、事業の傍ら、仏教・歴史・民俗・芸術・文学等多方面に深い造詣があり、韓国へは仏教研究のため、数十回現地に赴き研究している。2007 年３月には、『海東(ﾍﾄﾞﾝ)の古寺探想』を神奈川新聞社より自費出版している。研究により収集した貴重な資料約 500 冊は、韓国工科大学に寄贈されている。また、ドキュメンタリー映画『兼子－Kaneko』[38)] の企画・製作も行った。この映画はアルト声楽家であり、柳宗悦(民芸運動を起こした思想家)の妻、３人の子どもの母であった兼子の生き方や人物像、芸術性を彼女自身の歌と彼女を敬愛する人々のインタビューで綴った作品である。加えて、Ｅｘ－Ｌｉｂｒｉｓ（エックス・リブリス＝蔵書票）にも造詣が深く、収集・愛好家でもある。

2.4.2 コレクション紹介

コレクションは、氏が長年にわたり収集してきたものである。

寄贈いただいた資料は、LP レコード約 2,350 点、CD 約 1,400 点、関連資料約 40 点。クラシック音楽が中心であるが、特に CD はワーグナー作品を収録したものが多い。歌劇・楽劇を中心に、序曲・劇中音楽からフランツ・

リスト等によるピアノやオルガン独奏用に編曲された作品、吹奏楽による演奏、オルゴール演奏まで幅広く集め、ワーグナー作品が1曲でも収録されていれば 入手する徹底振りである。資料は、広く県民の皆様に活用してほしいとのご意向により、LP レコード・CD は館外個人貸出を行っている。所蔵資料の検索は、神奈川県立図書館＞ホーム＞資料検索・予約＞全項目：佐藤コレクション検索＞検索結果一覧ＡＶをクリックするとできる。

図4　佐藤コレクション
（当館 HP より）[15]

2.5 須賀田礒太郎自筆楽譜コレクション

当館“展示　須賀田礒太郎３つの物語–作曲家と楽譜と音楽と”等[39]を参考にまとめた。

2009 年、須賀田礒太郎のご遺族より、自筆楽譜を寄贈したいとの相談を受けた。須賀田礒太郎の作った音楽を多くの楽団や音楽関係者に利用してほしいとの意向であった。楽譜発見後、「須賀田礒太郎の世界」と題したコンサートが音楽堂を会場に 2002 年、2004 年、2006 年に開催された等、ゆかりのある当館に寄贈をとの申し出であった。寄贈を受け当館では、2010 年に「須賀田礒太郎自筆楽譜コレクション」を創設した。

2.5.1 人物紹介

須賀田礒太郎は、1907 年 11 月 15 日、横浜市中区（現：西区）西戸部町生まれである。関東学院中等部に入学し、ピアノ・ヴァイオリン・声楽・音楽理論を学んだが、肺結核のため 1927 年に中退。1928 年から、山田耕筰（作曲家・指揮者）、信時潔（作曲家）に作曲理論を学び、1931 年より、菅原明朗（作曲家）に管弦楽法を学んだ。1932 年、交響詩『横浜』、管弦楽曲『春
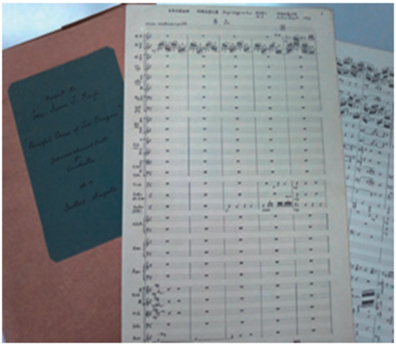
図５　須賀田礒太郎自筆楽譜コレクション（当館 HP より）[15]

のおとずれ』を作曲した。1933 年には、クラウス・プリングスハイム（グスタフ・マーラーの弟子であり、東京音楽学校教授となった）に作曲法を学び、近衛秀麿（指揮者・作曲家）に雅楽管弦楽法を学んだ。1935 年、管弦楽曲『日本絵巻』（雅楽風作品）が、宮内省式部職雅楽賞に入選、1938 年、管弦楽曲『交響的舞曲』が新響（現Ｎ響）第２回邦人作品コンクールに入選と、他にも多数の曲がコンクールで入選している。1937 年から 1944 年の間、帝国高等音楽学校作曲科嘱託として勤務し、横浜合唱団では指揮者としても活躍していた。戦時中の 1944 年に栃木県田沼町（現：佐野市）に疎開し、戦後 1952 年７月５日、44 歳で逝去された。1997 年、田沼町女性コーラス創立 15 周年記念音楽会で、須賀田礒太郎の『ご飯の歌』が歌われ、ご遺族へ「もっと他の曲はないか」との問い合わせがあった。ご遺族は、1999 年に蔵の調査を始め、自筆楽譜の発見に至った。それがきっかけとなり、須賀田礒太郎の音楽が現代に蘇り、演奏会が多数開催され、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏による CD も発売される等再評価された。

2.5.2 コレクション紹介

コレクションは、自筆楽譜 72 点（複製含む）、関連資料約 220 点（自筆作品目録、作品解説、作品素描、受賞関係書簡、作曲のための教材・ノート、自作以外の合唱用楽譜、映画・音楽会プログラム等）がある。主な作品としては、『交響的序曲』、『双龍交遊之舞』、『東洋組曲＜砂漠の情景＞』、『バレエ音楽＜生命の律動＞』等がある。

所蔵資料の検索は、神奈川県立図書館＞ホーム＞資料検索・予約＞全項目：須賀田礒太郎自筆楽譜検索＞検索結果一覧ＡＶをクリックするとできる。関連資料は、『須賀田礒太郎自筆楽譜・関連資料リスト』（冊子）

により所蔵がわかる。冊子は、視聴覚資料室で利用できる。

「須賀田礒太郎の作った音楽を多くの楽団や音楽関係者に利用してほしい」との理由から、ご遺族は、複写等に対する著作権行使を放棄している。但し、演奏会等で演奏する際には連絡をいただきたいとの希望である。また、コピーは、複製があるものは、複写が可能である。複製がない自筆資料は、劣化を防ぐため写真撮影申請での利用となる。館外個人貸出は行っておらず、館内での閲覧利用である。

表１　特別コレクション一覧

コレクション名	特色	創設	職業	利用方法／検索
日野康一コレクション 1929.9.2～2010.10.8	映画音楽 LPレコード	1971	映画 音楽評論家	**館内視聴・貸出可** OPAC検索 冊子:「日野コレクションレコード一覧」
野村光一文庫 1895.9.2～1988.5.22	ショパン LPレコード プログラム	1989	音楽評論家	**図書類…館内閲覧** **LP…館内視聴・貸出可** OPAC検索 冊子:「野村コレクション図書一覧/レコード一覧」 「野村光一文庫目録」
大宮真琴コレクション 1924.7.1～1995.5.14	ハイドン SPレコード	1991	音楽評論家 指揮者 大学教授	**館内視聴のみ** 冊子:「視聴覚教育資料目録SPレコード」
佐藤コレクション 1926～	ワーグナー CD	2001	実業家	**館内視聴・貸出可** OPAC検索
須賀田礒太郎 自筆楽譜コレクション 1907.11.1～1952.7.5	自筆楽譜	2010	作曲家	**館内閲覧　複製可** OPAC検索 冊子:「須賀田礒太郎自筆楽譜・関連リスト」

視聴覚資料の特別コレクションを一覧できるように表1にまとめた。特別コレクションは、神奈川県にゆかりのある方々の資料であり、貴重な資料も多数ある。当館では、今後も保存に気を配りながら利用しやすいよう整備していく所存である。視聴覚資料室では、特別コレクションとしている5点以外にも、主題別に分けた目録を作成している。『神奈川ニュース映画目録』1993 年刊、『寄贈レコード目録1〜3』1994、1999、2000 年刊、『ギターコレクション〜LP レコード部〜』1996 刊、『神奈川の歌と音』1997 年刊、『大平コレクション目録』2003 年刊等を発行している。利用の際の参考にしていただきたい。

3　神奈川県内の視聴覚サービスの現状

視聴覚サービスの今後を考えるにあたり、神奈川県内の視聴覚サービスがどうなっているのか、当館の視聴覚サービスとの違いがあるのかを考えてみたい。

3.1 概況

表2は、視聴覚サービスを実施している施設数をまとめたものである。

表 2　視聴覚サービスを実施している施設数

	視聴覚センター・ライブラリー	公共図書館		
		視聴覚センター機能を持つ図書館	視聴覚サービスを実施している図書館	小計
	施設	館	館	館
1984 年	28	6	15	21
2014 年	33	20	41	61

＊視聴覚センター・ライブラリー数…2014 年は財団法人日本視聴覚協会ホームページ 2015.9.16 現在のリストによる。1984 年は『神奈川県立図書館・音楽堂 30 年のあゆみ』p.78「視聴覚ライブラリー一覧」1984.3 現在のリストによる。

*公共図書館数…『神奈川の図書館 2014』及び『神奈川の図書館 1985』による。

既に１．２節で記述したように、1984 年、県内視聴覚ライブラリー(学校教育・社会教育における視聴覚教育の振興を図るために設置された施設)[40] は、28 施設あったが、一般社団法人日本視聴覚協会ホームページ[41] によれば、2014 年の神奈川県内の視聴覚センター(名称が異なるだけで、視聴覚ライブラリーと同じ機能を持つ施設)、視聴覚ライブラリーは、33 施設とある。30 年の間に５施設が増加した。一方、『神奈川の図書館 2014』[42]によれば、2013 年度、視聴覚サービスを実施している図書館(図書館運営に必要な資料として視聴覚資料を収集、提供している館)[43] は、61 館（購入館は、37 館）ある。その内、20 施設は視聴覚ライブラリーの機能も併せ持っている。また『神奈川の図書館 1985』[44]によれば、1984 年度視聴覚サービスを実施していた館は、21 館(購入館は、27 館)である。その内、６施設が視聴覚ライブラリーの機能も併せ持っている。重なる施設を引くと、2013 年の図書館での視聴覚サービスは 41 館、1984 年の図書館での視聴覚サービスは、15 館となり、26 館増加したことになる。個人を対象としたサービスである図書館の方が増加していることがわかる。団体サービスを中心とした視聴覚ライブラリーは、16 ミリフィルム等の利用が中心である。

施設が減少したのは、DVD、CD 等新しい記録媒体が主流になっていること、インターネットの普及によるサービスの変化等が影響しているためと思われる。設置および運営形態は自治体によって様々であるが、資料からわかった神奈川県内での 2013 年度視聴覚サービスを実施している施設・図書館は、33 施設+41 館となり、74 機関となる。

3.2 視聴覚資料の媒体別の所蔵と利用状況

次にサービスの内容を、図書館の統計『神奈川の図書館 2014』を利用して比較していく。従って、61 機関(図書館 41 館+視聴覚ライブラリー20 施設)の比較である。2013 年度分を視聴覚資料の媒体別に調査した。表３は所蔵と利用の面からまとめたものである。

表 3　視聴覚資料の媒体別の所蔵と利用状況～『神奈川県の図書館 2014』から～

	所蔵館				利用状況				
	所蔵館	県内所蔵数	最多所蔵館	最多所蔵館の所蔵数	館内視聴館数	貸出館数	貸出数	最多利用館	最多利用館の年間利用数
	館	点		点	館	館	点		点
16 ミリフィルム	19	9,545	県立	3,531	0	8	945	座間	298
ビデオテープ	36	70,458	横中	14,296	21	35	55,572	横中	23,566
ＤＶＤ	50	21,606	二宮	2,073	18	39	148,197	逗子	15,221
ＬＤ	9	8,413	伊勢原	3,480	7	—	—	横中	7,506
ＣＤ	44	285,708	厚木	35,170	24	48	784,026	厚木	158,854
レコード	5	88,370	県立	69,868	1	4	881	県立	636
カセットテープ	29	22,112	県立	4,998	11	33	6,306	鎌倉	1,488

＊図書館の名称は略称で記入した。

県立…神奈川県立図書館、横中…横浜市中央図書館、二宮…二宮町図書館、
伊勢原…伊勢原市立図書館、厚木…厚木市立中央図書館、座間…座間市立図書館、
逗子…逗子市立図書館、鎌倉…鎌倉市中央図書館

3.2.1　16 ミリフィルム

16 ミリフィルムは、19 機関で所蔵し、県内で 9,545 点、当館が 3,531 点と一番多い。貸出を行っているのは、8 機関、945 点、10%の利用率である。県内最多の貸出館は座間市立図書館で、308 点所蔵し、年間で 298 点貸出している。館内での視聴はどこの館も行っていない。特定非営利団体映画保存協会のホームページ[45]から、図書館に併用されていない視聴覚ライブラリーの 2015 年 9 月時点での所蔵点数がわかったので、参考までに記述する。横浜市視聴覚センター：1,236 点。川崎市視聴覚センター：965 点。相模原市視聴覚ライブラリー：1,967 点。三浦市視聴覚ライブラリー：220 点。厚木市視聴覚ライブラリー：235 点。伊勢原市視聴覚ライブラリー：30 点。合計 4,653 点となる。6 施設をあわせた合計数と当館 1 館の所蔵数は近いものがあり、いかに当館が 16 ミリフィルムを所蔵しているかわかる。

3.2.2　ビデオテープ

ビデオテープを所蔵している館は、36 機関で 70,458 点。貸出は 35 機関、55,572 点で 78.9%の利用率である。視聴は 21 機関である。県内で所蔵が一番多いのは、横浜市中央図書館で 14,296 点あり、館内視聴のみの利用ではあるが、23,566 点の利用がある。所蔵ビデオが 1.6 倍利用され、他の図書館の利用と比較して桁が一桁多い。

3.2.3　ＤＶＤ

DVD は、50 機関で所蔵し、21,606 点ある。県内で一番多く所蔵しているのは二宮町図書館で、2,073 点ある。個人貸出は、39 機関で実施し、148,197 点の利用があり、6.8 倍の利用率である。逗子市立図書館では、1,156 点所蔵で、利用は 15,221 点と県内一であり、所蔵の 13 倍の利用率である。視聴は、18 機関である。

3.2.4　ＬＤ

LD は、9 機関、8,413 点の所蔵である。貸出点数には、当館が「0」と

記入されているが、これは貸出を行っていない意味の０である。視聴は 7 機関。横浜市中央図書館は、1,551 点の所蔵だが、利用は 7,506 点と 4.8 倍利用されている。点数が多いのは伊勢原市立図書館で、3,480 点である。

3.2.5　ＣＤ

CDは、44機関で所蔵し、285,708点ある。貸出は、48機関で実施し、784,026点の利用があり、所蔵の 2.7 倍の利用率である。県内で一番利用されているのは、158,854 点の厚木市立中央図書館である。所蔵も県内一多く、35,170 点あり、4.5 倍の利用率である。視聴は 24 機関である。

3.2.6　レコード

レコードは、５機関、88,370 点あり、貸出は４機関で、881 点の利用がある。当館は、69,868 点所蔵し、県内で一番多い。貸出も 636 点で一番多い。視聴は、当館だけが行っている。

3.2.7　カセットテープ

カセットテープは、所蔵機関が 29 機関で、22,112 点ある。貸出は、33 機関が実施し、6,306 点貸出されている。視聴は、11 機関である。県内で一番多く所蔵しているのは、当館で 4,998 点所蔵している。利用が多いのは、鎌倉市中央図書館で、1,488 点、所蔵は 1,374 点である。

3.2.8　統計からわかる現状

『神奈川の図書館 2014』の統計から、紙芝居とその他を除いた７種類での比較であるが、単純に貸出数でみても DVD148,197 点、CD784,026 点と多く、16 ミリ 945 点、レコード 881 点と桁が違っている。この数字からも、記録媒体の変化によってサービス形態が変化したことがわかる。７種類すべてを所蔵しているのは、当館と小田原市立かもめ図書館の２館だけである。視聴するための機材確保が難しいレコード、LD を所蔵している館は少なく、時代の変化に左右される視聴覚サービスの現状が見て取れる。

3.3　県内視聴覚資料費の推移

県内の視聴覚資料費の過去10年間を比較した。『神奈川の図書館』2005～2014から各館の決算年度視聴覚資料費をグラフ化したが、減少がありありと読み取れる。グラフから判断すると、県内図書館の視聴覚サービスは、少ない経費の中でかろうじて維持している状況であるといえる。

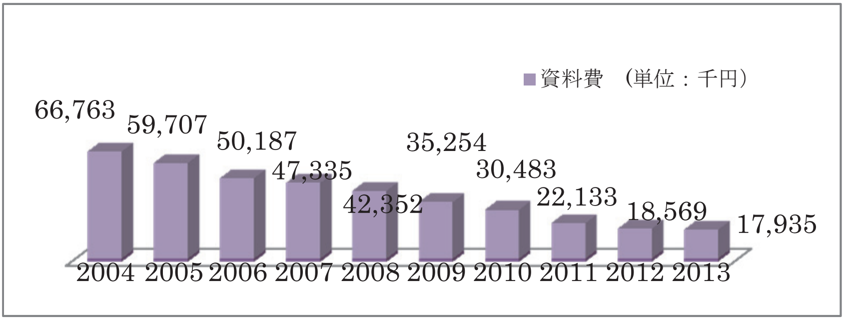

図6　県内視聴覚資料費の推移

おわりに

2015年6月15日付の『情報教育だよりNo. 32』(横浜市視聴覚センター発行）に、「インターネット等の普及による利用数の減少など、その担うべき役割が低下しているため、平成27年度をもって一部の視聴覚教材の貸出し業務を横浜市中央図書館に移管し、その事業を終了します。」と掲載されている。「一部の視聴覚教材」とは、著作権等の確認ができるDVDとVHSと記入されている。長く継続されてきた横浜市視聴覚センターの事業が終了することは残念であるが、これも時代の変化に影響される視聴覚サービスの宿命かと考えさせられた。また2015年6月30日付『毎日新聞』[46]の記事によると、「国立国会図書館がテレビやラジオ番組を録画・録音して保存する放送アーカイブ構想の実現に向け、国会の議論が加速している。…」とある。まだ議論の段階ではあるが、時代の変化がここにもあると感じた。

現在、国立国会図書館では、歴史的音源（1900～1950年頃のSP盤等のデジタル化音源）をインターネットで視聴できるようにしている。国立国会図書館内限定の公開音源は、公共図書館等に配信提供もしている。神奈

川県内では、10 機関の公共図書館と大学等４機関、あわせて 14 機関が利用している。インターネット上では、公的な機関以外でも様々な無料コンテンツが混在している。選択の幅が広い中で、公共図書館での視聴覚サービスは、ますます変化を余儀なくされると思われる。

当館は､歴史的音源も利用し､また７種類の記録媒体を所蔵している等、保存館としての機能は果たしているといえる。しかし、部屋は縮小を余儀なくされ、資料費には限度があり、現在は CD の購入だけでサービスを実施している状態である。細々と視聴覚サービスを続けることで県立図書館としての使命を果たしているといえるのか、県立として視聴覚サービスを継続していかなければならないのか、資料の劣化・保存環境の劣悪さ・肥大する保存スペース、デジタルアーカイブと視聴覚資料との違いは等、問題は尽きない。

結論としては､視聴覚サービスの行く末は､縮小の傾向にあるといえる。しかし、過渡的な時代、利用の多様性の時代である現代を見据え､「時代の変化に注意しながら、当面は視聴覚サービスを続けるのが、図書館の使命であろう」とまとめとしたい。（文中、人名の敬称は省略した。）

注および引用文献

1)神奈川県.“緊急財政対策の取組結果”. 2014.2.7. http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/754767.pdf,（参照 2015-09-16).

2)神奈川県立図書館編. 神奈川県立図書館 60 年の歩み～最近 10 年間を中心に～. 神奈川県図書館, 2014, p.43.

3)・神奈川県立図書館・音楽堂 30 年のあゆみ. 神奈川県立図書館・文化資料館・音楽堂, 1984.

・神奈川県立図書館・音楽堂 40 年の歩み～最近 10 年間を中心に～. 神奈川県立図書館・音楽堂, 1994.

・神奈川県立図書館 50 年の歩み. 神奈川県立図書館, 2004.

・神奈川県立図書館編. 神奈川県立図書館 60 年の歩み～最近 10 年間を中心に～. 神奈川県立図書館, 2014.

4)文部省.“視聴覚ライブラリーの充実整備について(文社教 134 号)”. 1971. 7. 13.
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19710713001/t19710713001.html,
(参照 2015-09-16).

5)神奈川県立図書館・音楽堂 30 年のあゆみ. 神奈川県立図書館・文化資料館・音楽堂, 1984, p.73.

6)神奈川県立図書館・音楽堂 30 年のあゆみ. 神奈川県立図書館・文化資料館・音楽堂, 1984, p.78.

7)LP レコード…Long playing record の略。アメリカのコロンビア社が 1948 年に開発した長時間レコード。片面 30 分の収録時間である。直径 30ｃｍが標準で、25ｃｍのものもある。回転数は 33 回転である。
https://kotobank.jp/word/LP%E3%83%AC%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%89-821298,
(参照 2015-12-03).

8)文部省社会教育審議会施設分科会. “博物館の整備・運営のあり方について(報告)”. 1990-7-5.
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19900705001/t19900705001.html,
(参照 2015-09-16).

9)LD…Laser Disk（レーザーディスク）の略。1977 年に Philips 社が開発し、日本ではパイオニアが 1990 年に発売を開始した。円盤上に記録してある音声・画像をレーザ光によって再生するものである。
http://www.weblio.jp/content/laser+disk, (参照 2015-12-03).

10) SP…Standard playing の略。1887 年にエミール・ベルリナーが開発した円盤状の蓄音器用レコードの総称である。片面 4 分 30 秒の収録時間である。直径 30cm が標準で、25cm のものもある。回転数は 78 回転である。
http://www.weblio.jp/wkpja/content/SP%E3%83%AC%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%89_SP%E3%83%AC%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%89%E3%81%AE%E6%A6%82%E8%A6%81,
(参照 2015-12-03).

11) EP…小さいので扱いやすいが収録時間の短い 17 センチ・シングル盤と、収録時間は長いが大きく比較的高価な 30cm LP 盤の中間に位置するもので、シングルレコード盤と同じサイズながら収録時間が長いため「Extended Play」と呼ばれ、

その略称がEPである。外径17ｃｍ、45回転、片面約７分の演奏時間である。LPに対抗して、1949年にRCAビクターが発売した。
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%AF%E3%83%88%E7%9B%A4，（参照2015-12-03）.

12）神奈川県立図書館・音楽堂40年の歩み～最近10年間を中心に～．神奈川県立図書館・音楽堂，1994，ｐ151.

13）当館の旧ホームページの紹介文によれば、1971年創設、「…リストは『レコード目録』(1980年３月刊行)に所収…」となっている。現在のホームページでは、1976 年創設、「…曲名等は『〔日野康一コレクション〕レコード目録』（昭和 51年５月刊行）でご確認…」とあり、二つの創設日が記述されている。資料として残っている目録の奥付には、「昭和51年５月」と記述されていることから推測するに、創設は1971年、目録は1976年刊行と考えたい。目録は手書きのリストであり、創設後まとめるのに時間がかかったと思われる。

14）日外アソシエーツ編．現代物故者事典2009～2011．日外アソシエーツ，2009，p.509.
15）神奈川県立図書館．“コレクション紹介”．http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/yokohama/materials/collection.htm，（参照2015-09-16）.
16）一般財団法人日本映画批評家大賞．“日本映画に貢献した先人たち　日野康一”．2013,http://jmc-award.com/pioneer/index.html，（参照2015-09-16）.
17）日外アソシエーツ編．現代評論家人名事典．日外アソシエーツ，1995，p.457.
18）アンサンブル・プチ他．映画音楽大全集１～５．CBS　SONY　RECORDS.
19）カラベリときらめくストリングス．西部劇映画ベスト・ヒット曲集．CBS　SONY　RECORDS.
20）ミッチ・ミラー合唱団．アクション映画ベスト・ヒット曲集．CBS　SONY　RECORDS.
21）日野康一．ブルース・リー大全科．秋田書店,1981.
22）日野康一．ジャッキー・チェン大全科．秋田書店,1982.
23）青木啓．世界の名曲とレコード４～映画音楽～．誠文堂新光社,1970.
24）神奈川県立図書館．“展示パネル(Web版)野村光一文庫”．
http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/yokohama/information/tenji_panel_nomu

ra.htm, (参照 2015-09-16).
・ウィキペディア."野村光一".Wikipedia.2014-5-6, https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%8E%E6%9D%91%E5%85%89%E4%B8%80, (参照 2015-09-16).
25) 野村光一. 名曲に聴く上・中・下. 創元社, 1953, 1954.
26) 野村光一. ピアノ回想記. 音楽出版社,1975.
27) 野村光一. ショパン. 青土社,1980.
28) 日外アソシエーツ編. 現代物故者事典 1994～1996.日外アソシエーツ, 1997, p.121.
29) 日外アソシエーツ編. 音楽家人名事典. 日外アソシエーツ, 1991, p.118.
30) 神奈川県立図書館. 〝県立図書館 60 年の歩み ビジュアル版 附録２ 特別コレクション〟. http://www. klnet.pref.kanagawa.jp/ yokohama/materials/collection.htm, (参照 2015-12-04).
31) 大音楽家・人と作品２《ハイドン》. 音楽之友社,1962.
32) 徳丸吉彦共編. 幼児と音楽 ゆたかな表現力を育てる. 有斐閣選書,1985.
33) 大宮真琴. ピアノの歴史：楽器の変遷と音楽家のはなし. 音楽之友社,1994.
34) 神奈川県立図書館編. 視聴覚教育資料目録－SP レコード－. 神奈川県立図書館, 1992.2.1.
35) 神奈川県立図書館編. 平成 18 年度事業概要. 神奈川県立図書館, 2006.6, p.26
36) 神奈川県立の図書館. 司書の出番！ブログ風の記事はいかが「佐藤コレクション」のこと". 2013-11-7. http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/recommend/?p=1785#more-1785, (参照 2015-09-16).
37) 中村卓司. 横浜の佐藤さん 専門書や CD 図書館に寄贈 県が感謝状. 神奈川新聞, 2004-4-29, 23 面.
38) 兼子 ―ｋａｎｅｋｏ. 全農映,2004.
39)・神奈川県立図書館. "展示 須賀田礒太郎３つの物語–作曲家と楽譜と音楽と". http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/yokohama/information/tenji1104.htm , (参照 2015-09-16).
・神奈川県立の図書館. "司書の出番！ブログ風の記事はいかが 須賀田礒太郎自筆楽譜コレクション". 2012-3-20. http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/

recommend /?p=970#more-970,（参照 2015-09-16）.

・ウィキペディア．“須賀田礒太郎”．Wikipedia．2015-4-20．
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A0%88%E8%B3%80%E7%94%B0%E7%A4%92%E5%A4%AA%E9%83%8E,（参照 2015-09-16）.

40）視聴覚ライブラリー…地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 30 条に基づいて設置された施設である。視聴覚教育を総合的に行うため、資料の収集だけでなく、教材供給、教材制作、情報提供、研修、ニューメディアの活用等も行っている。サービスの対象は、学校等の団体である。

41）一般社団法人日本視聴覚協会．“視聴覚センター・ライブラリー　神奈川県”．2015．http://www.javea.or.jp/links/lib.html#神奈川県,（参照 2015-09-16）.

42）神奈川県図書館協会編．神奈川の図書館 2014．神奈川県図書館協会，2014.10，p.24-30，40-44．

43）視聴覚サービスを実施している図書館…図書館法(昭和 25 年法律 118 号)に基づいて設置された図書館において、運営上必要な資料として視聴覚資料を収集し提供している図書館である。サービスの対象は、原則、個人である。

44）神奈川県図書館協会編．神奈川の図書館 1985．神奈川県図書館協会，1985.10.15，p.10，47．

45）特定非営利団体映画保存協会．“公共の視聴覚ライブラリー　関東の視聴覚ライブラリー〔６〕神奈川県”．http://filmpres.org/link/kanto/,（参照 2015-09-16）.

46）丸山進．全番組保存国会図書館で　報道監視　メディアは警戒　超党派が法案化．毎日新聞，2015.6.30，朝刊，p.30．